

司書職採用試験受験体験記

文学部 文学科 4年

S. M

はじめに

私は今年度（平成 27 年度）に実施された司書職採用試験において、〇〇〇から合格通知を受け、採用されることになりました。ここでは、受験のスケジュールやそれぞれの試験の概要、対策等について書いていこうと思います。

試験概要

司書として正規雇用で働くには、主として公立図書館か大学図書館が職場になります。大学図書館で働くには、大学職員の採用試験を受けることになりますが、私立大学は国立大学とは異なり司書職としての採用はなく、総合職での募集となるでしょう。必ずしも図書館に配属になるとは限らないので注意が必要です。公立図書館での勤務を希望する場合、各自治体の公務員試験を受験します。

司書職採用試験は、募集团体によって試験内容や問題形式が全く異なりますので、HP 等で必ず試験概要を、手に入るのであれば過去問をチェックするようにしてください。

次に試験の概要と受験スケジュールについて説明します。私が受験したのは国立国会図書館、東京都、埼玉県、私立大学になります。国立大学法人は埼玉県と試験日程が重なっていたため受験しませんでした。

・国立国会図書館

一次：教養試験（5 月）

二次：専門試験＋個別面接

・東京都

一次：教養＋専門試験（9 月）

・埼玉県

一次：教養＋専門試験（9 月）

二次：適性検査、作文＋面接

東京都と埼玉県は電子申請での受験申込でした。インターネット環境を準備しておく必要があります。

国立国会図書館と埼玉県の筆記試験は択一試験でしたが、東京都は教養試験のみ択一で専門試験は記述形式でした。

埼玉県の面接は一日で二回行い、一回目と二回目で場所を移動します。どちらも個別面接ですが、一回目は広い会議室の中のひとつのブースで他の職種の方々と同時に面接を受け（距離はありますが仕切りはありません）、二回目は個室で受けました。

教養試験について

司書職の教養試験は同じ公務員の一般行政職のものよりも簡単です。私は数的処理と判断推理、資料解釈が一番苦手の分野で、解くのに時間がかかりました。日本史等の科目は高校までの記憶で何とかなると判断して特に改めて勉強し直すことはせず、とにかくその三つに時間を割き、解き方のパターンや考え方のコツを覚えるようにしました。難易度は違うものの、専門試験とは異なり教養試験の科目は一般行政職と同じなので、予備校の公開模擬試験や市区町村の試験を受けていく過程で徐々に時間配分を調整していきました。

私は春までは暗記に費やし、夏から過去問を解くようにしましたが、もっと早くから始めた方がよかったと思います。過去問を解いていると頻出の分野が分かるので、そちらを解いた後にそれから暗記をした方が効率的に問題を絞って覚え

られると思いました。

専門試験について

専門科目は基本的には大学の講義でのレジュメを使って覚えていきました。先生方のレジュメは重要な点がピンポイントで記されているため大変便利です。ぜひご活用ください。

解説書はあるものの、司書の問題集は少なく、ひたすら『司書もん』の三冊を繰り返し解きました。そこで間違えた問題や実際に試験を受けた際に分からなかったものを単語帳に書き出して、隙間時間を活用して確認するようにしました。

さらに、専門試験の問題には教養科目ほどには慣れていなかったため、受験する予定はありませんでしたが、国立大学図書館の問題も解きました。過去問題はインターネット上で公開されているものがあるのでそちらを利用しました。公立図書館とは試験形式が全く異なりますが、図書館情報学の問題を解く練習になりました。

私は主に情報サービスや図書館サービス、図書館文化、制度、そして受験する図書館で行われているイベントや特色について力を入れて学習しました。受験する図書館には実際に足を運んで確認しました。情報学がもう少し出来ていたら点が伸びたのではないかと思います。

面接試験対策

私は司書職だけでなく一般行政枠でも公務員試験を受け、さらに並行して民間企業の採用試験も受けていました。第一志望の〇〇〇が一番遅い日程だったため、一番良い状態で受けられるように、それまでに企業や市町村の面接を受けて場慣れするよう調整しました。この過程によって他業種を検討することになり、そのうえで改めて司書職への志望が強くなりました。

面接自体は事前に記入する面接シートに沿って行われます。質問項目は志望動機や入職後にどのような仕事に携わりたいか等典型的なものが多いです。面接時に話を広げられるように詳しく書きすぎないことをおすすめします。

今年度はCCCや鎌倉市の司書のSNSでの投稿が世間で話題になり、面接で問われることが

予想されましたので、図書館関係のニュースを調べ、利点や問題点、自分ならどうするか、確実に意見を言えるようにまとめておきました。図書館以外の質問は、ストレス対策や趣味、自分の強みや直したいところといった、一般的なものが多かったと思います。やはり場慣れすることが大切だと思いますので、就職キャリアセンターの模擬面接の利用や実際の面接試験を多く経験して、落ち着いて確実に答えられるようにしていくと良いと思います。そのように対策を重ねても緊張はすると思いますが、面接官はプロですから受験者が緊張していると分かると、答えやすい質問から始めてくれます。また、予想外の質問で自分が分からない話題を問われても、素直に「分かりません」と答えて大丈夫です。安心して、正直に誠実に面接に挑んでください。

おわりに

私が受験していく中で一番辛かったことは勉強場所の確保です。自宅では集中できない性質で、予備校にも行政研究所にも入っていなかったため勉強場所には苦勞しました。自宅と大学の距離が離れているため移動するのが億劫でしたが、色々と試しているうちに自分には朝の電車内が一番集中して勉強できることに気がつきました。そのために単語帳に暗記カードを作るなど、自分に合った勉強法を見つけることが出来たと思います。

司書の採用試験は時期が遅く、同級生が次々に就職活動を終えていく中で勉強を続けていくことはなかなかのストレスになります。孤独になりがちだからこそ、息抜きの時間を大切にしてもらいたいです。友人と遊んだり、食事にでかけたり、趣味を満喫する等ストレスを溜めこまずに勉強に取り組んでください。悩んだときには相談に乗ってくれる友人たちや先生方、キャリアセンターの皆さんがいます。自分だけで解決できない時は、考えすぎずに人に頼ってみてください。

長く厳しい就職試験になると思いますが、頑張ってください。この体験記が皆さんの試験対策に少しでも役に立てたなら幸いです。

図書館司書試験合格体験記

文学部 文学科 4年

T. M

はじめに

皆さんこんにちは。私はこの度、国立大学法人図書系の試験に合格し、大学図書館で司書として働くことが決まりました。今回は、合格までの道のりを合格体験記として書かせていただこうと思います。これから司書を目指す皆さんの参考になれば幸いです。

概要

まず、私がどのように試験を受けてきたのかをざっと説明します。

私が試験の勉強を始めたのは、2年生の2月頃からでした。私は数学が大の苦手で、数的処理が必ず大きな壁になるだろうと思い、数的処理の参考書を購入して、ほかの科目よりも一足先に勉強を始めました。また、明治大学で開催されている司書の勉強会に参加するようになったのもこの頃です。

3年生になると、本格的に試験の勉強を始めました。科目ごとに過去問を購入し、ひたすら繰り返し解いていました。図書試験の方は、勉強会で出された問題と、国立大学法人の図書試験の過去問を利用して勉強していました。

3年生の春休みから4年生の初め、明治大学のリバティアカデミーで行われている公務員試験直前対策講座に参加し、試験前の最終確認を行いました。勉強が足りないと感じた暗記系科目と時事問題の参考書を購入し、試験直前まで眺めていました。

公務員及び司書の試験は、一年を通して行われます。私の場合は、5月から始めて10月まで続けました。4月から7月は試験の申込をしながら筆記試験を受け、8月から10月は最後の追い込みをしながら筆記試験と面接試験を受けていました。

教養試験

教養試験は、全ての試験に課されます。これに合格できなければ、面接試験等に進むことはできません。

私は、予備校には通わずに独学で教養試験の勉強をしていました。通える範囲に予備校がなかったことと、両親に学費以上のお金を出してもらうことが申し訳なかったからです。なので、過去問を購入してひたすら解きました。何回も何回も繰り返しました。数的処理などは出る問題のパターンが決まっているので、解き方を身に着ければそれほど苦にはならないと思います。日本史などの暗記系の科目は、範囲がととても広いので、「とりあえず過去問に載ってることは覚える！」と自分で覚える範囲を絞って勉強しました。

加えて、明治大学リバティアカデミーの公務員試験直前対策講座も受講しました。多少お金がかかりますが、予備校に通うよりは安価だし、大学に付属しているので、交通費も余計にかからずとても助かりました。直前ということもあって、重要なポイントを一通りおさらいすることができ、勉強が足りない部分も分かるのでお勧めです。

私は利用していませんでしたが、「予備校には通えないけど独学では何をしたらいいのか分からない…」という方は予備校の通信教材を利用するのもあります。

専門試験・面接試験

まずは専門試験について説明します。実を言うと、私は図書系以外の専門試験の勉強を全く行っていませんでした。司書一本に絞っていたのと、教養試験対策に一杯一杯になってしまっていたので、法律やら経済学やらには手が出せなかったのです。なので、図書系試験のことについてだけ述べます。

図書系の試験は、問題集というものがとにかく少ないです。私が試験を受ける年に、丁度よく出版された国立大学法人の図書系試験の過去問が、私が初めて見た図書試験の過去問でした。選択問題だけでなく、文章で答える問題も多く収録されており解説も丁寧なのでお勧めです。ネットで購入できます。司書課程室にも置かれているので、購入する前に一度目を通すこともできます。

それに加えて、私は明治大学で月に一度開催されている司書の勉強会に参加していました。問題演習はもちろん、面接対策も行えます。図書館の話題に触れることもできるので、面接に役に立ちます。何より、同じ志を抱く仲間と出会うことができます。学年、学校の枠を超えて交流できるので、新しい発見もあるかもしれません。司書を目指す方は、是非一度足を運んでみてください。

次に、面接試験について述べます。私は、国立大学法人の試験で初めて一次試験を突破し、3校の大学で面接を受けました。大学によって面接日程は様々ですが、日程が重ならなければ何校でも受けることができます。面接の回数は1回であったり2回であったり、面接官の人数も3人だったり5人だったり、大学によってまちまちでした。ですが、全体的に聞かれることは同じでした。面接前に書くESに沿った質問や、「何故大学図書館を選んだのか」「何故この大学を選んだのか」「どのような業務を行っていきたいか」など、テンプレートな質問が多かったです。あまり変化球な質問はされないの、自分の考えを落ち着いて話すことができれば大丈夫です。

面接に慣れるために、大学の就職キャリア支援センターで面接の練習をしてもらうといいです。友達や家族と行うのもいいですが、やはり初対面に近い大人と行った方がいいと思います。職

員の方はプロなので、アドバイスも的確で、とても勉強になります。ESの書き方なども教えてくれるので、積極的に利用するといいです。

反省点

図書系以外の専門試験の勉強をしていなかったこと。私の試験スケジュールだと、前半に地方や東京の公務員試験が固まっていたので、論文や専門試験の対策をしていなかった私はボロボロでした。公務員も狙っている、という方は、私のように危ない橋は渡らずに、万遍なく勉強することをお勧めします。専門試験対策を盛り込んだ公務員試験対策講座もリバティアカデミーでは開講されているので、それを受講することもいいと思います。

次に、面接対策にあまり時間が取れなかったこと。国立大学法人の一次試験に合格するまで、教養試験の勉強しかしてこなかったの、面接試験の対策がギリギリになってしまいました。夏休みなどの長期休暇を利用して、もう少し練習しておけたらよかったですと思っています。せっかく就職支援の体制が整っている大学なので、利用できるものはどんどん利用してください。

おわりに

私の合格体験記にお付き合いいただき、ありがとうございました。公務員試験、特に司書の試験は時期が遅く、長丁場になります。ストレスを溜めてしまうことは絶対にNGです。「今日駄目だな」と思ったら、休んでください。長い道のりなので、休まなければ完走できません。

司書は門が狭い分、とてつもない不安が付き纏うと思います。それに負けないように、適度に休みながら少しずつゴールを目指してください。皆さんの合格をお祈りしています。